

## 【羽生地区】

# 市民座談会懇談内容（概要）

## ①市内中心部の活性化策

（質問）

- 1) 本町通りをはじめとした商店街がシャッター通りとならないような策があるか伺いたい。
- 2) 町内会等への補助金が減っている理由を知りたい。

（回答）

→ 1) 持続的な発展を目指していくため、市では大きく3つの方法で取組を行っている。1つ目に出店者にとって魅力のあるエリアを作る仕組みをつくること。令和元年度から市、商工会、地元有志、地元企業、教育機関等によってMALL DESIGN 実行委員会を設立し、商店街エリアを中心に事業構築に取り組んでいる。今後、中心市街地の活性化、出店者の増加につなげていきたい。

2つ目に出店したいという意欲を刺激すること。市では、「空き店舗補助金（最大で100万円）」制度のほか、「創業支援セミナー」の開催、「創業支援事業補助金」がある。

3つ目に事業を続けたいという意欲を応援すること。市では、商工会と連携し、相談内容に応じた支援を行っている。空き店舗や出店に関する情報を皆様でお持ちの場合、商工課まで連絡いただきたい。

→ 2) 補助金については、市全体の方針として一律で減らしていることをご理解いただきたい。

## ②空家対策

（質問）

中央を中心に空き家が見られる。防犯、防災上危険なところ、悪影響を及ぼすものもあると思うが市の考え方は。

（回答）

→ 近年全国的にも、使用されていない住宅や建築物が増加している。本市でも、平成29年に条例を制定、平成31年には、羽生市空家等対策計画を策定した。平成29年度の空き家の調査では、羽生地区で280件確認をしている。基本的に、空き家の管理は、管理者責任が大前提。しかし近隣住民の方などから、苦情をいただいた場合、環境課で現場確認のうえ、所有者等に対し文書を送付している。また、個別相談会を実施している。管理者が遠方

にいるなど、直ぐに解消に至らないケースもあるが、樹木剪定や雑草の除去への対応として、シルバー人材センターや民間事業者などを紹介し、所有者の協力が得られるよう、交渉を進めている。相談案件がある場合、環境課へご相談頂きたい。

### ③少子高齢化社会の対応

(質問)

令和2年度決算の民生費の割合が29.2%となっていた。福祉関係への予算が多くなっているが、他の公共事業へ大きな影響があるのではないか。少子高齢化社会にあって、市ではどのように考えているか。

(回答)

→ 市の小学校の児童数は、令和3年11月現在で約2,300人。ピークの昭和59年からほぼ半減している。高齢化率は30%を超えている。

具体的な各施策は、まず、企業誘致に取り組んでいる。岩瀬土地区画整理事業では、昨年、大型商業施設を誘致した。また、優良住宅街区を整備している。子育てへの支援は、「子育て世代包括支援センター(はにゅうすくすく)」を設置。市民プラザ内では「こどもひろば(子育て支援拠点)」を設置し、講座や教室の開催に努めている。他に子ども医療費やインフルエンザ予防接種に対する助成など実施している。教育分野では、専属のALTを配置し英語教育に力を入れているほか、小中一貫教育やデジタル教科書などを推進している。

また移住促進の事業として、市ホームページに移住専用ページ、Instagramの開設、移住イベントの開催など市のピーアールに努めている。

(再質問と回答)

Q 事業を今後見直ししていくということに対し、今後、情報発信をすべきでは。

A 公共施設統廃合の情報発信等については、積極的に発信するようにしていきたい。

### ④パープル羽生のこれから

(質問)

パープル羽生が何年後かに廃止になるなどの噂がある。跡地についてはどのように考えているか。早いうちに解体し住宅にし、住民を増やしていきたいと考えているが、現状どのような状況か。

(回答)

→ パープル羽生は市民プラザへ令和 5 年 3 月に移設する方向で考えている。跡地については、様々な意見をいただいているが、解体は令和 6 年度で予定されている。変更となる場合については、また相談させて頂きたい。廃止する前には、広報やホームページにてしっかり発信していきたい。

## ⑤気候変動によるゲリラ豪雨対策

(質問)

近年のゲリラ豪雨対策と中川の改修工事のスケジュールについて伺いたい。

(回答)

→ 近年、大雨の頻発化・激甚化が、全国各地で発生しており、県内で 1 時間当たり 50mm 以上の降雨が発生した回数は、約 1.5 倍に増加している。市では、大雨による浸水被害対策として、雨水排水のほとんどが起点となる中川の河川改修工事を県へ進めてもらっている。改修の概要は、川幅の拡幅や調節池の設置がある。ほかにも、用排水路の通水量の調整、用排水路や河川へ排水するポンプの設置、また、浸水区域における道路側溝内の土砂撤去などを行っている。また、止水板設置への補助や土のうステーションの設置、排水ポンプ車の導入などを行っている。

中川の改修工事のスケジュールは、中手子林調節池までの延長 3.3 キロメートルの河道改修工事と中手子林調節池の築造が県の事業として進められている。これまでに、中手子林調節池 15 万立方メートルの掘削工事が完了し、河道拡幅工事は 3.3 キロメートルの約半分が完成している。改修工事の完了時期は、令和 5 年度の目標でいる。

(再質問と回答)

Q 南小は地域の避難場所。車で行くと貯留地となってしまうっており、車で入れないが如何か。

A 南小を貯留地としたのは、周辺が浸水してしまうことによるものから。浸水時は、校庭に貯まる前に避難指示は出す。貯まってからの移動は危険。実際には、南小へ車で避難することはできないと考えている。

### 【その他】

(質問と回答)

Q 市民プラザでの新型コロナウイルスワクチン接種の際、接種者の車と利根川の河川工事のダンプカーの通行により本町通りが渋滞した。ダンプカー等が通る等の情報は事前に把握して、連絡を入れてほしい。

A 運搬経路を南部幹線や国道 122 号を通るよう依頼をした。現時点で、本町通りを走るダンプカーはないかと思う。迂回等については、お願いということになるが、連絡はさせて頂くように今後努めていきたい。